

いもう 葦毛通信



サワガニ

令和2年11月4日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 102

1、2020年度の大規模植生回復作業を開始します！

葦毛湿原の大規模植生回復作業も2012年度(2013年1月)から開始し、今年で9年目になりました。今年度は11月10日(火)から作業を開始する予定で、作業は11月から2021年3月まで年末年始を除く毎週火曜日の9~12時、毎月第3日曜日の9~12時に行います。

また、葦毛湿原と同様の植生回復作業を行っている豊橋市指定天然記念物「ナガバノイシモチソウ自生地」では、11月から毎月第3火曜日の13~16時に作業を行う予定です。これ以外にも作業の進行状況を見ながら随時必要な作業を行う予定です。また、都合により日時を変更する場合がありますが、どちらの作業も公開しており、葦毛湿原では木道の上から、ナガバノイシモチソウ自生地はフェンスに囲まれているのでフェンス越しになりますが、自由に見学ができます。興味のある方は是非ご覧ください。

また、植生回復作業に参加いただけるボランティアも募集しています。興味のある方は豊橋市文化財センター(0532-56-6060)までご連絡下さい。

今年の作業は森林化した湿地の木を伐って湿地を再生する第2段階がほぼ終わり、かろうじて良好な湿地として残っていた湿地中心部の遷移を部分的に後退させる**第3段階**に入ります。



昨年の植生回復作業(2019年12月10日)

葦毛湿原北西隅のJ地点、湿地中心部で木道に囲まれ、

これまでほとんど手を付けてこなかったI地点、間伐して明るい森にしたL地点を中心にネザサ、コシダ、ウラジロ等を除草して、一部で根の除去を行う予定です。特に明るい森にしたL地点では毎年ネザサを刈り取っていましたが、明るくなることにより勢いを増し、かなり増えている状態です。除草するだけでは遷移を後退させる効果が無いようです。

J地点も明るい森にしたところで、伐採直後は明るくなることによりフモトスミレが多く咲くようになりましたが、ここでもネザサが勢いを増し、フモトスミレはあまり咲かなくなっていました。サワオグルマも発芽して開花していますが、やはりネザサに圧迫され衰退しつつあります。

ネザサやコシダは根を除去しないとすぐに再生してしまいます。どのような方法で除去するのが有効かを実験しながら判断していく予定です。大きな面積の作業は、バックホーを使うことになるとは思いますが、間伐したところはバックホーが使いにくい状況です。手作業で根を除去するやや大きめの実験区を設定する予定です。

2. ムカゴニンジンとキアゲハ

葦毛湿原では大規模植生回復作業の進展と共に様々な変化が見られます。作業を行ったところもスピードは異なりますが、毎年変化しています。

葦毛湿原にはムカゴニンジンが自生していますが、数が少なくなっていました。今年、中央広場南側のF地点の旧水田でムカゴニンジンが大きな群落になり花を咲かせました。ムカゴニジンは下左写真の説明看板があるところから奥に向かって5 m程の範囲に広がっています。



F地点旧水田ムカゴニンジン群落 (2020年9月10日) ムカゴニンジン近接 (9月5日)



ムカゴニンジンの花 (8月27日)

復活したムカゴニンジン (9月22日)

しばらく観察していると8月27日にムカゴニンジンにキアゲハの幼虫がたくさんいるのを見つけました。9月5日にはサナギ直前になったものも確認しましたが、成虫になったものは確認していません。ムカゴニンジンを中心にかなり食べられてしまいました。ムカゴニンジン一旦花が少なくなりましたが、キアゲハの幼虫がいなくなると再び成長して花を咲かせました。しかし、9月27日にはまた、キアゲハの幼虫がたくさんいるのを見つけました。キアゲハの発生には何度かの波があるようです。現在幼虫は終齢がわずかに見られますが、ムカゴニンジンにはムカゴ(珠芽)がたくさんついている状態です。キアゲハに食べられても来年も多くの花を咲かせてくれると予想しています。



サナギ直前 (9月5日)

3、謎のハエ(ショウジョウバエ?)

葦毛湿原では植物以外に定点カメラによる動物の撮影を行っていますが、昆虫については体系的に写真を撮ることができていません。これまで、ホソバリンドウのポリネーター(送粉者)がコハナバチであることを報告(葦毛通信 No. 61)し、ノリウツギに集まる昆虫を紹介(葦毛通信 No. 4)しましたが、単発的でした。これ以外にもこれまで昆虫の写真を撮影した中で気付いたことがあるので紹介します。

できれば、来年からはトンボやチョウ等の種を特定する調査のための撮影を行い、また絶滅の危機にある植物のポリネーターについても詳しく調べたいと考えています。

昆虫の撮影では予想していないものが写っている場合があります。ハンミョウとムカシヤンマを撮影した際に、謎のハエが写っていました。ショウジョウバエの仲間だと思えますが種名は分かっていません。

1) ハンミョウ(ナミハンミョウ)

ハンミョウは葦毛湿原では湿地中心部を歩いている個体やムカシヤンマに捕食されている個体等を何度か見えています。これ以外には指定地北部の自然歩道沿いで確認していましたが、2019年から個体数が増えてきたようです。特に北部の自然歩道は林間でやや明るい裸地になっており、2019年には交尾している個体が確認できました(右上写真)。オスが大アゴでメスの胸部を挟んで交尾をしています。オスの大アゴは全体が白くなっていますが、メスは半分ほどが白くなっており、簡単に判別できます。

当地方ではハンミョウは8月中旬から9月下旬に成虫が羽化し、しばらくそこにいてから周りに出ていきます。どこに行っているのかははっきりしませんが、葦毛湿原で見る個体はどこかの産卵繁殖地(幼虫が集中している場所)から飛来したものと考えていました。冬には集団で成体が越冬し、4月下旬から5月上旬の2週間ほどの間に生まれたところに戻ってきて交尾・産卵します。

葦毛湿原で見るハンミョウは、昨年初めて交尾しているところ

を観察できました。8月4日なので春の交尾期ではなく、夏の羽化する時期の交尾です。



交尾しているハンミョウ(2019年8月4日)



オス頭部拡大(8頭のハエ)

通常の交尾期ではないので、羽化後特に栄養状態が良く産卵可能になったのかもしれませんが、おそらく交尾していたところの近くに産卵繁殖地があると思われますが、確認できていません。

この交尾の写真を撮っていた時には気づきませんでしたでしたが、写真を拡大してみるとオスの頭部と胸部に小さなハエが8頭群がっている（前頁下写真）のが確認できました。ハンミョウの目の大きさとほぼ同じで体長約2mmのショウジョウバエの仲間と思われます。なぜ、多くのハエが群がっているのかは謎です。

2) ムカシヤンマ

ムカシヤンマは葦毛湿原を代表するトンボで、幼虫はミズゴケの中に巣を作り、7年間の幼虫生活の後、成虫として羽化するとされています。葦毛湿原内ではまだ幼虫は確認できていません。葦毛湿原は、かつてはミズゴケが少ないことが特徴だとされていましたが、その頃にもムカシヤンマは確認されています。指定地の周辺でもミズゴケが堆積している小湿地はいくつもあるので葦毛湿原以外に幼虫の巣があるのかもしれませんが。

ムカシヤンマが捕食している写真を撮り、捕食された昆虫がなんであるのかを豊橋市自然史博物館の学芸員に聞いたところ、アオクサカメムシかミナミアオカメムシのいずれかであろうということでした。この時、捕食されているカメムシに1頭のハエが写っていました。このハエもハンミョウに群がっていたハエと同じでショウジョウバエの仲間だと思われます。



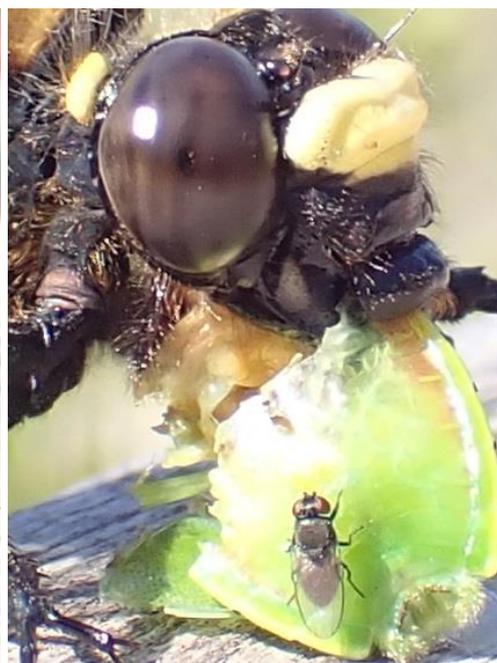
ハンミョウのハエ



ムカシヤンマのハエ



捕食中のムカシヤンマ (2020年5月13日)



頭部の拡大